

おっみネット

●発行日 / 2011年9月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

元気印 NPO ①

農業に
取り組む人を
発掘して応援したい

農業

特定非営利活動法人
愛のまちエコ倶楽部

2

特集★OHMI視点

①

災害が起きたとき、 私たちにできること

世間よし〜企業の社会貢献〜

滋賀レイクスターズ

⑤

NPOのIT活用術

滋賀ものづくりネットワーク

⑥

元気印 NPO ③

地域資源の発掘が
住民の自信と誇りに

まちづくり

芸術村 IN
余呉実行委員会

⑥

元気印 NPO ②

個別の要求に
応えようと地道に笑顔で活動

障がい者支援

特定非営利活動法人
友と遊

4

災害が起きたとき、私たちにできること

三月十一日に発生した東日本大震災は、被害状況が明らかになるにつれ、私たち一人ひとりに、災害が起きたとき何ができるのか？市民活動はどんな役割が担えるのか？と問いかけている気がします。

今回の特集では、滋賀県社会福祉協議会の谷口郁美さんに、一人ひとりができることについてお聞きしました。また、被災地支援を行っている滋賀県の市民活動団体にもお話を伺いました。

ボランティアだからこそ届けられるもの

社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会

地域福祉担当課長 谷口郁美

東日本大震災の発災から半年近くが経ちました。テレビやラジオが被災地の惨事を伝えるなかで、「何かしないとあかん。でも何ができる？」と答えを見つけて出せないことに悶々とした人は多かったと思います。私もその一人です。翌日、県ボランティアセンターとして支援本部業務を始めました。

「被災地でボランティア活動をしたいんですけど、どうしたらいいですか？」。心が動き出した人たちからの電話がどんどん入るようになりました。しかし、被災地の状況は厳しく、ボランティアがかえって現地の負担になるとの判断から、「お気持

ちをありがとうございます。でももう少しお待ちください。その時がきたらきつとボランティアを求める声があちこちから上がってきますから」とお断りしてきました。その時がやってきて、滋賀から、全国各地から、多くの人々が被災地に向かいました。だれもが現地の流儀に従い、精いっぱい活動されたことと思います。

復興の取り組みが進むなか、ボランティアが必要とされている時期は一定終わったかのような感があります。しかし、災害時にボランティアができること、ふつうの人が行動すること

の意味というようなものを考えたとき、被災地の人々が自分たちの暮らしをつくっていかうと一歩踏み出された今、これからは、「ボランティアだからこそできること」がある、今からがボランティア活動のほんとうのよさ、力、値打ちが発揮されるときではないかと思うのです。

お話しすること、おいしいお茶をいれること、何かを手伝うこと、楽しい気持ち、うれしい気持ちになってもらえるものを送ること。そのことによって相手はひとときのやすらぎ、ほっとできる時間、楽しい気分を持つことができそうです。専門家は、「こんなことしてほしい」という要求が本当に必要なものかどうか、本人の自立を妨げないかどうかを判断して支援を決めます。一方でボランティアのよさ

谷口郁美●プロフィール

2003年から県社協職員となる。市町社協の仲間とともにオール滋賀社協の一員として、やわらかく、粘り強く、明るく仕事をしていくことがわたしのスタイル。地域づくり、暮らしの豊かさづくりに関わる多くの人たちとの出会いと、協力しあって仕事ができるということによるごびを感じている。かつての仕事で出会った子どもたち、その家族、地域の人たちから学んだことをいつも忘れずにいたいと思っている。



○3・11救援情報サイト 助け合いジャパン
(内閣官房震災ボランティア連携室 連携プロジェクト)
<http://tasukeaijapan.jp/>

なるべく正しい情報・ニーズを、被災地と、被災地を支援したい人にすばやく提供するために、阪神大震災の教訓から始まったプロジェクトです。

○東日本大震災支援全国ネットワーク
<http://www.jpn-civil.net/>

東日本大震災における被災者支援のために結成された、全国の災害支援関係のNPO・NGO等民間団体のネットワークです。

○滋賀県社会福祉協議会
<http://www.shigashakyo.jp/>
TEL : 077-567-3920

「東北地方太平洋沖地震」支援本部を設置し、適切な救援活動を行うための情報収集と、ボランティア受け入れに対する準備を行っています。

岩手県、宮城県、福島県の災害ボランティアセンターにもリンクしています。

代表 ● 植田茂太郎
設立 ● 2005年 会員数 ● 68名 (H23年5月現在)
連絡先 ● 東近江市妹町70番地
TEL : 0749-46-8100 FAX : 0749-46-8288
e-mail : ai-eco@ex.biwa.ne.jp
URL : http://www.ai-eco.com



農家の後継者を育てる エキスパートに なりたい！

あいとうエコプラザ菜の花館を拠点として活動している「愛のまちエコ倶楽部」。今年的主力事業の1つ『田舎もん体験』では、種まきの準備から収穫まで、一から体験してもらおう12種類



▲事務局の増田さんと園田さん

のプログラムが用意されています。たとえば、「お茶っばーず」では、放棄されていた小さな茶畑をお茶農家の方と一緒に無農薬で復興させたり、「角井スイカ物語」では、地元の生産グループの方から学びながら、かつてスイカの名産地として有名だった地元の品種を栽培したり。愛東ブランドの梨やぶどうを育てる「ぶどう物語」や「愛エコ梨倶楽部」では、剪定から出荷まで本格的な農家の技術を学ぶ新規就農コースもあります。

県内外の家族連れや夫婦、シニア世代の男性など、多様な参加者が集まっていますが、いくつかの体験プログラムや貸し菜園などを組み合わせて利用している方も多く、愛東の町に来ることが週末の楽しみの1つとして定着しつつ



▲皆で育てた角井スイカは見事な出来！

あるようです。こうして楽しく体験できるのは、参加者の思いに寄り添って指導してくれる地元の協力者の方がいるからこそ。今後は、体験プログラムを通して、本格的に農業に取り

組む人を発掘し応援するような体制をつくっていきたいとのこと。後継者がいなくて困っている農家もいれば、農業に挑戦してみたいという人もいるのに、そうした両者のマッチングを支援する仕組みは今のところないそう。それならば、自分たちがエキスパートとなれるよう、頑張っ

て取り組んでいきたいと意気込みを語ってくれました。
(おうみネットサポーター 高田友美)



▲被災地でのボランティア活動の様子

は、しんどい思いをしている人、困りごとを抱えた人が一番ほしいと思っていることをストレートにできます。希望に沿えることにあります。まさにふつうの市民として、困っている人の状況や気持ちを想像し、心が動いたことに従って行動できることがボランティアの強さです。ボランティアに必要なのは「人としての土台」である人権感覚、相手のことを思いやる力を磨くことです。

あの一日に、恐ろしいほどの人が、家族や友人、大切なものをなくしました。まちの大切なもの、人々の大切なものが「がれき」と呼ばれ、まだそこにあります。そんななかで命をつないだ人たちの営みがあります。わたしたちが感じたことや気付いたことを大事にして、被災地の人や地域に届けましょう。人や地域がよるこんでくれるからこそボランティアが輝く！

■被災地活動ボランティア情報

被災地での活動をお考えの方へ、インターネットで情報を提供しているところをご紹介します。

○しがNPOセンター ボランティアツアー

<http://shiga-npo.la.coocan.jp/>

E-mail: shiga.nep@gmail.com

大槌町を支援先に定め、復興のシンボルとして、サケの遡上する大槌川再生をめざす「鮭プロジェクト」に協力します。滋賀からは「カムバックサーモン・プロジェクト」として9月～12月に各1回、バスを運行します。募集はウェブ上に掲示します。

○全社協 被災地支援・災害ボランティア情報

<http://www.saigaivc.com/>

全国社会福祉協議会・全国ボランティア・市民活動振興センターより災害ボランティア関係情報を掲載します。

支援ができることを幸せに思い 生きている幸せを感じながら

特定非営利活動法人 湖西生涯学習まちづくり研究会 **どろんこ**

2005年、地域で障がい児童を持つ家族との出会い、交流をとおして全ての子どもが地域で暮らせるまちづくりを目標に活動を始めた「どろんこ」では、障がい児童がゆっくりおもちゃで遊びながら学べるおもちゃ図書館活動もしています。全国のおもちゃ図書館のつながりから、東日本大震災被災地への支援を始めた「どろんこ」。代表の保井五雄さんに支援のきっかけと活動についてお聞きしました。

3月11日、東日本大震災の後、仙台市のおもちゃ図書館世話人と連絡を取り、現地で不足しているものや必要な支援についてお聞きし、4月に夜警に使う電池と懐中電灯が不足しているとの連絡を受けて、懐中電灯と電池を送りました。障がい児童の家族や介護が必要な高齢者の家族は、避難所での生活が難しく自宅で避難生活を送っています。町内のコミュニティは無くなっており、安全面で不安があり、自主的に夜警を始めているとのことでした。

食事についても、避難所からおにぎりなどの支援が届きますが、障がい者や高齢者、乳

児にとってはとても堅くて食べにくい。そこで「おかゆ」を送る支援を始めました。既に700食以上を被災地のおもちゃ図書館関係者をとおして配布しています。「おかゆ」支援は箱館フーズの協力と地域のみなさんの寄付で行っており、約70万円の寄付が集まっています。この支援は5年間程続ける予定で寄付を受け付けていますのでご協力ください。

今後は、JR西日本などの助成金で、おもちゃの広場キャラバン隊として、東北大学の学生ボランティアと東京のおもちゃ図書館の協力で地元の避難所を訪ね、子ども達におもちゃを届けます。6月には仙台市、7月初旬に福島



URL:<http://www.machiken-doronko.com>
TEL:0740-20-2301

県へ事前の調査として現地を訪ねました。出会った子ども達は様々な不安を抱えており、心のケアの大切さも感じています。阪神大震災を経験したカウンセラーにも相談するなどして、子ども達の心に寄り添い、支えていくことも必要だと思っています。

今回の震災で強く感じたのは、「日頃からの人のつながりこそ、災害時に頼りになる。」「被災者自身が今、何が必要なのか整理し、伝えることが大切。」ということです。普段から人のつながりを作っていく、頼り、頼られることができる関係こそ大切だと思っています。(2011年7月7日取材)

日頃からの人のつながりと 準備こそ重要

特定非営利活動法人 **多文化共生マネージャー全国協議会**

(特活)多文化共生マネージャー全国協議会(以下、「NPOタブマネ」)は、(財)自治体国際化協会と全国市町村国際文化研修所(滋賀県大津市)が研修・認定を行っている多文化共生マネージャーを中心に2009年に設立されました。2007年の新潟県中越沖地震において被災地の外国籍住民へ情報発信を行ったことをきっかけに、災害時の外国人支援について研究を進め、全国に広めるために各地で研修会などを行っています。同NPOの理事であり、滋賀県職員でもある高木和彦さんに東日本大震災での外国人に対する支援活動についてお聞きしました。

NPOタブマネの参加者は、市町村職員や国際協会などの職員が多く、日々、地域の多文化共生に専門性を持って取り組んでいます。日頃は各地域の多文化共生地域づくりにつながる情報をネット上で共有しています。災害時に現れる、地域に潜在する課題に対応できる地域のサポーターとして、留学生や外国人住民、地域住民などを把握し、通訳や情報発信できる体制を人のつながりを活かして作っています。

東日本大震災では大津市に「多言語支援センター」を開設しました。活動内容はwebによる外国語での情報提供と電話による相談対応。日頃

のネットワークを活かし、各地の通訳や翻訳のできる地域のサポーターに協力が呼びかけられ、やさしい日本語を含め9言語で情報発信できる体制が整いました。災害時、外国人には情報が届きにくい。正確な、幅広い情報を届けることが、外国人だけでなく地域の安心にもつながります。

また、今回の地震では、仙台国際交流協会の支援にも行きました。仙台では東北大学の留学生が震災当日から通訳などの手伝いに参加していました。日頃から地域とつながり、必要な時には手伝うという準備がされていた結果です。元々、人のつながりが濃く、地域のコミュニティ



URL:<http://tabumane.jimdo.com/>

に外の人を取り込むという地域の特徴もあったと思います。

災害はいつ、どこで起こるか誰にも分かりません。日頃の地域のつながりが大切です。ぜひ、滋賀でも災害を想定した避難所運営訓練を各地で実施してほしいですね。外国人、高齢者、障害者、地域のあらゆる人が一力所で一晩過ごす経験をする事で、日頃から何が必要なのかを実感できる機会になります。多言語支援センターは4月30日で閉鎖しましたが、今後は今回の経験を伝えていきたいと思っています。(2011年7月12日取材)



代表●井上 欣憲
設立●2008年
会員数●22人
連絡先●大津市長等1丁目5-18 5
TEL&FAX : 077-522-0378

一人一人に寄り添う 障がい者の自立支援を 笑顔ですすめています。



▲にこやかに対応していただいた
井上理事長夫妻

「友と遊」は、設立から3年、障がい者への「居宅介護事業」、「日中一時支援事業」、「移動支援事業」を中心に、順調に事業を伸ばしています。職員15名がフル活動して、35人ほどの利用者それぞれの欲求に応えられるように、地道に笑顔で活動しています。例えば、ブランコに乗りたいとの要望があれば、近くの公園のブランコにお伴をします。利用者の能力を考慮し、能力を活かせるよう一人ひとりのニーズに応えることを大切にしています。

理事長の井上さん、サービス担当を担う妻の元子さん、ご夫妻は高齢者介護事業に携わっていましたが、障がい者支援のみをしたいと「友と遊」を始めました。個別ケアという理想を掲げて始めましたが、現実には厳しく、最初の2年間、お二人は無休だったそうです。

今年、やっと体制が整い、次の展開として「放課後支援」の準備を始めています。障がい児者の放課後の支援をする事業で、現在活動する建物の2階を改装して実施します。近隣の北大津養護学校と草津養護学校とも話し合い、利用者の目途もたち、来年の開業を目指しています。

最初、子育ての経験も豊富でゆったりとした気持ちのシニア世代のヘルパーやボランティアと一緒に運営していました。この心ある支援が「友と遊」を利用して自宅へ帰ったときの利用者の笑顔からご家族にも伝わり、口づてで利用者増加へとつながりました。今は、この支援を若者に伝え障がい者支援を希望する若者を安定的に雇用し、障がい者支援を仕事にできるようにしたいと考えています。

「私は障がい者支援が好きです。素直だし、もう一度子育てをしている感じで、成長が実感できる。それが楽しいのです。」と元子さん。お二人のこれからの活動を応援していきたいと思います。

(おうみネットサポーター 岡崎一郎)



▲「切り紙」得意な利用者さんに寄り添うあったかい風景

★知っ得インフォメーション★

災害には、日頃から防災意識や準備が大切ですね。体験や研修をされている団体をご紹介します。

○子育て家族防災トレーニング

特定非営利活動法人 子どもネットワークセンター天気村
URL : <http://www.biwako.ne.jp/~nt-tenki/>
TEL : 077-564-7868

地球があそび場だ！をキャッチフレーズに、様々な自然や人とのふれ合いを通して、子どもたちがのびのび育つ保育を実践。親子で一緒に、楽しく遊びながら防災について体験し、地域の防災活動への参加につなげ、子育て家族の防災力をアップします。

○「備えと構え」で“減災”目指す

たかしま災害支援ボランティアネットワークなます
URL : <http://www.takashima-namazu.net/>
TEL : 0740-25-5095

防災・減災に対する啓発活動として防災学習会など、災害ボランティアが力をつける災害訓練など、被災地への救援・支援活動や後方支援として労力支援、炊き出しなどを行っています。

○「言葉がわからない」体験ゲーム

何が起った？(震災編)
滋賀県国際協会 国際教育研究会 Glocal net Shiga
URL : <http://www.s-i-a.or.jp/>
TEL : 077-526-0931

地域で暮らす外国にルーツをもつ方々で、日本語から情報を得ることに難しさを感じる日々の生活での苦労や不安について、体験・理解できるゲームです。情報を得るためにさらに困難な状況が増す災害発生時を想定して教材を開発しました。(1セット1,500円)この教材を使った出前講座を行っています。



また、ホームページでは多言語の防災情報についても紹介しています。

多くの団体や人が被災地のために、何らかの支援をしたいと考え、行動しています。被災地で活動する方、滋賀県で活動する方、それぞれの活動が被災された方々の応援になると同時に、それぞれの経験が地域での災害時への準備につながるのではないのでしょうか。どんな支援をしたのか共有することで、地域の方々と災害時に何ができるか、何が必要かを考えるきっかけにつながればと思います。

市民活動への期待

「一步を踏み出せるような情報」

「市民活動が活発になること＝人と人の絆の創出」と認識し、大いに期待をしています。無縁社会と呼ばれる中、「社会や地域やくらしの課題に気づき、その課題を他者も思いを同じく共有し、課題解決にむけて、考え・実践する。また認め合い・協同することのすばらしさを発見する」、このことが、人と人の絆を創り出し、社会や地域やくらしを自らが自分たちの力で豊かにしていくことに繋がっていくと確信しています。

かつて行った意識調査で様々な分野(福祉・環境・子育て・農業・食育など)への市民活動に参加についてきたことがあり、回答の共通点は「参加してみたい」が5%前後、そして「いずれは機会があれば参加してみたい」が40～60%という結果でした。また「いずれは機会があれば参加してみたい」を注視すると、どの年齢層においても各分野とも幅広い年齢層の市民が積極的でなくとも参加意欲をもち、きっかけを探しているように思われました。

多分に地域感やくらし感は、似通った状況が潜在的にあり、同じ想いを認識でき、参加への背中を押してくれるような「情報」の重要性を感じたのを覚えています。市民活動の情報交流誌である「おうみネット」のそれぞれの記事や活動紹介自体が、身近な情報であり、素直な実感、共感を得て、参加の裾野を広げていく役割を発揮し、豊かな人と人との絆が深まっていくことに大いに期待します。



地域力を高める
メッセージコーナー

人と企業と NPOをつなぐ

HI・RO・BA



生活協同組合コープしが
専務理事 白石 一夫さん

世間よし ～企業の社会貢献～

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働(パートナーシップ)のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

株式会社滋賀レイクスターズ TEL : 077-527-6419 FAX : 077-527-1029 URL : <http://www.lakestars.net/>

地域公共財としての総合型地域スポーツクラブを目指す

滋賀で唯一のプロスポーツチームを運営している株式会社滋賀レイクスターズ(以下レイクス)は、滋賀県立体育館に多くの観客を集め、昨シーズンは地元企業スポンサー 286社に支えられている。今回、広報を担当されている榎原さんにお話を伺った。

まず、レイクスの社会貢献活動の理念についてお話を聞いた。「スポーツは公共性の高いものです。私達は、子ども達が学校訪問(JA共済presentsレイクスキャラバン)で出会ったプロ選手から刺激を受けてスポーツに関心を持ち、自らスポーツをはじめようになる総合型地域スポーツクラブを目指したい。」と語っていただきました。



▲震災支援活動をする滋賀レイクスターズの選手

レイクスは、3月11日、東日本大震災後、すぐ試合の開催

中止をリーグが決断。12日・13日には地域で物資募集や募金活動呼びかけた。思いの外、物資が多く集まり、ファンや協賛企業が物資の仕分け作業にかけつけた。榎原さんは当時のことを振り返り、「震災支援は、たくさんの地域の応援のおかげで行うことができた。」と言う。

最後に、レイクスの今後の展望を聞いた。「組織としての目標は、チームが勝つこと。しかし、単なる数字の右肩上がりの成長ではなく、震災支援をはじめ様々な社会貢献活動をして地域に根差す成熟した組織を目指したい。」と言葉に力が入る。このような目標を持つレイクスは、自らのことを地域公共財としての総合型地域スポーツクラブと呼んでいる。これからのレイクスの活躍を楽しみにしたい。

(淡海ネットワークセンタースタッフ 膽吹憲吾)



▲今回、お話を伺った広報担当の榎原さん



芸術村IN 余呉実行委員会

代表●中山 克己
設立●2009年 会員数●50人
連絡先●長浜市余呉町中之郷260
TEL: 0749-86-4145
e-mail: pal@zc.ztv.ne.jp
ブログ: <http://artvillage.shiga-saku.net/>

昔話の世界に タイムスリップ！ ～余呉は宝の山～

進んで行く高齢化、若者の流出、そんな中で「余呉全体を売り出していこう」と芸術村IN余呉実行委員会が発足しました。余呉には、森林面積93%という自然資源、賤ヶ岳合戦などの歴史資源、文化活動がありました。



▲野外アートフェスティバル、木工品・余呉の食などにぎやかに

イタリアでは、小村であってもオペラやコンサートを楽しんでいる農村があり、そんなイメージも描いていました。活動は、元々ある資源や活動をつなげたり、PRしたりすることです。イベントをチラシにし、湖北地域全戸に配布し、ブログで発信しています。

余呉で何かおもしろそうなことをやっていると思われ、また、地域資源の再発見にもなり住民の自信と誇りにつながってきています。チラシには、浅井三姉妹や賤ヶ岳合戦関連のイベント、創作余呉オペラ、座禅体験、そば打ち体験、



▲野外アートフェスティバル・チェンソーアート

余呉に伝わる民話の語り、古民家を再生した『小劇場弥吉』でのライブ、オールナイトライブ、田舎料理バイキングなど余呉ならではのイベントが盛りだくさんです。

「余呉には原色の看板がない。コンビニもない。そこがいい。スローフード、スローライフ、文化を楽しみながら暮らしてもらえれば。」と事務局の辻川さん。しかし、チラシ作成・配布するのに資金がかかるため、助成金を申請したり、資金集めに苦労しているとのこと。これからは、若者も巻き込みながら、廃校を芸術活動の基地として活動していきたいと話してくれました。

（おうみネットサポーター 山名朋希）

NPOのIT活用術！

NPO法人 滋賀ものづくりネット
<http://shiga-monodukuri.net/>

スタッフのやる気を感じる
ホームページ



滋賀でものづくりに取り組む人たちを応援する活動をしている、滋賀ものづくりネット。ホームページを活用して、ものづくり作家が集まる広場「滋賀がいいもん市」の紹介と参加者募集をしています。「ものづくり作家さん」というコーナーでは、いいもん市に参加している作家さんたちの自己紹介が掲載されていて、ものづくりを楽しむ様子が伝わります。事務局の浦谷さんは、ホームページ作成にあたっては文字を少なくしてイラストや写真を中心に、活動の内容が見ただけで伝わるよう工夫したそうです。また、地域や他団体との共同イベントでは、ホームページが経過告知の掲示板のような役割も果たしているとか。随時最新のイベント情報がトップに掲載され、「やる気」を感じるサイトになっています。

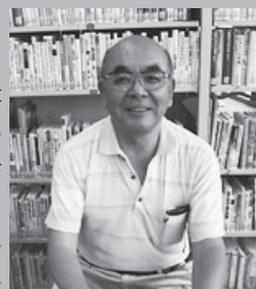
おうみ未来塾 リレーエッセイ

自分の居場所

5期生 西澤 勝
グループ：まなぶくん

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

定年前に妻から「わしもいく族」・「濡れ落ち葉」にならないでと釘をさされたこともあり、自分の居場所探しに「未来塾」「レイカディア大学」「淡海カレッジ」と立て続けに入学しました。会社時代にまったく無頓着だった市民活動・NPO・ボランティアについて多くのことを学び、「市民活動は楽しくなければ長続きしない、楽しみになることが大事」と教わりました。自分のもって生まれた長年の性格の改革・改造が必要だとつくづく痛感いたしました。それからもう6年ですか…。



現在は「おおつ環境フォーラム」「おやじのたまり場」「レイカ大津支部」の3団体に所属し、ホームページの構築や季刊誌の発行など主に広報を担当しています。市民活動が楽しみになるまでにはいたっていませんが、充実した日々を過ごしています。退職前に仕方なく教わったパソコンが今ではかけがえのない大事なものになっています。

東日本大震災では、ツイッター、フェイスブックなどの、ソーシャルメディアの社会インフラとしての力を見せつけられました。これからも仲間と教え、教えられてICTのスキルアップに努めて、パソコンを通して「まちづくり」に少しでも貢献出来ればと考えています。

新登場 未来ファンドおうみ
「びわ湖の日基金」応援！
寄付つき商品のご紹介！

2011年7月1日、びわ湖の日制定30周年を記念して、一人ひとりが琵琶湖への思いを寄付に託し、市民による琵琶湖につながる環境保全活動への助成として応援する基金を開設しました。下記の商品の売り上げの一部が「びわ湖の日基金」へ寄付されます。お買い物で応援してください。

直接のご寄付も受け付けています、淡海ネットワークセンターまでご連絡ください。

●有限会社とも栄菓舗

ゆたかな自然に恵まれた滋賀県安曇川のゆたかな農産物「アドベリー」のお菓子です。

「あど果みるく」「あど果むっす」の売上げの一部が寄付されます。



▲あど果みるく

●株式会社ヌーベルムラチ

きのこの里・近江竜王(滋賀県竜王町)の採れたて、栄養豊かな足太あわび茸をお届けします。「あわび茸山椒煮」「あわび茸昆布煮」「あわび茸の炊き込みご飯の素」の売上げの一部が寄付されます。



イベント 第2回協働サロン
コミュニティビジネスセミナー

自分の買いたいものが自分で選べる地域に～暮らしの足を考える地域の絆プロジェクト～
◇日時：9月16日(金) 13:00～16:30
◇場所：男女共同参画センター(近江八幡市)
◇内容：講演&ワークショップ
『課題抽出から問題解決の地域連携モデルを創る』
講師：永沢映さん(NPO法人コミュニティビジネスサポートセンター代表)
詳細はチラシをご覧ください。

イベント おうみ未来塾活動報告会

おうみ未来塾は、地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」を目指しています。滋賀県のような地域で市民によるまちづくり活動を学び、2年目にはグループ活動としてフィールドに入り、地域の課題に取り組みます。今回は、2年目を迎える11期生のグループ成果発表会を行います。「地域プロデューサー」を目指すおうみ未来塾生の発表から地域づくりや市民活動を進めるヒントを見つけに来て下さい。
◇日時：11月12日(土)午後(詳細はチラシをご覧ください)
◇場所：ピアザ淡海 206・207 会議室

講座 NPO ミニ講座のご案内

NPOの設立・運営についての講座を毎月第2金曜日に開催します。NPO法人の設立を考えている方、団体の運営について分からない方は、ぜひご参加ください。

◇日時：9月9日(金)、10月14日(金)、11月11日(金)、12月9日(金)
各日 14:00～15:00

◇場所：淡海ネットワークセンター ふらっとルーム
資格参加費：無料

◇内容：ガイダンス、制度、手続きの説明など(参加される方のご希望に合わせて)、質疑・相談など
◇お申込み：開催日の前日までに、電話・メール・FAX等により、お名前と参加者数を淡海ネットワークセンターまでお知らせください。お一人からでも歓迎いたします。

講座 NPO法人パソコン会計
体験講座のご案内

会計ソフトを使った実技中心の会計講座を開催します。簡単入力で、決算書までバッチリ対応します！経理処理にお悩みのNPO法人の方は、ぜひご参加ください。

◇日時：9月17日(土)(野洲会場)、9月21日(水)(ピアザ淡海会場)

◇参加費：1,000円
◇その他：9月21日(水)開催日は、各自ノート型パソコンを持参下さい。詳細はチラシをご覧ください。
◇お申込み：開催日の1週間前までに、電話・メール・FAX等により、お名前と連絡先をお知らせください。

イベント ファンドレイジングフォーラム
～市民に支えられるNPOを目指して～
ファンを増やして、ファン
度レイジング！

寄付を集めることは、活動や団体について知ってもらい、ファンになってもらうこと。市民活動団体がファン(市民)の信頼を受け、ファン(市民)に支えられる組織になるために、どんな取り組みが必要なのかヒントをつかめるフォーラムです。

組織でファンドレイジングに取り組むためのワークショップもあります。みなさん一緒にご参加ください。

◇日時：10月15日(土) 10:00～16:00
◇会場：草津市まちづくりセンター 301会議室

◇講師：鈴木 歩さん
(NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会)

◇資料代：500円

葉の花プロジェクトのイメージが強かったのですが、設立当初から、食農を中心とした様々な事業を展開されてきたことを初めて知りました。地元の農業従事者の方々力もお借りしながら、今後どのように、新たな担い手を育てていくのか楽しみます。

(おうみネットサポーター 高田友美)

天の采配を感じる取材となりました。井上理事の奥様の「障がい者支援が好き」ということばに出会い、感動的でした。自分の障がい者支援活動にも活かせるすばらしい取材でした。

(おうみネットサポーター 岡崎一郎)

取材の時に焼畑で作られた「山かぶドレッシング」を頂きました。自然な甘みと酸味が効いていておいしかったです。山には山菜やわさびなどがあり、猪、鹿、熊も出てくるとのこと。集落に一步入れれば昔話に出てくるような、大阪生まれの私にはワクワクする場所です。これからも余呉の素敵なイベントに注目しています。

(おうみネットサポーター 山名朋希)

●2011 秋号●

Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

〒520-0801
大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
TEL 077-524-8440
FAX 077-524-8442
http://www.ohmi-net.com
E-mail: office@ohmi-net.com
開館時間 / 9:00～17:00
休館日 / 月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県情報室など

おたがいさまがつながり、生きる。

未来ファンド **個人の気持ち、企業のCSR**
おうみ 様々な“志”を地域に支える市民活動へ、
しっかりつなぎます。

寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方は、**淡海ネットワークセンター**にお気軽にお問い合わせください。

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌
「おうみネット」 掲載広告募集中!

★発行部数10,000部
★県内外の配布先約1,900カ所
★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください!



この印刷物は再生紙を使用し、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。